



上野総合市民病院だより

◆病院で働く認知症看護認定看護師について紹介します

高齢化の進展とともに認知症と診断される人が増えています。認知症は、物忘れが多くなったり、時間、場所が分からなくなるなど、脳の機能が低下する病気です。

認知症看護認定看護師は、認知症の人が安心して過ごすことができるように支援する看護師です。患者さん一人ひとりの状態や気持ちに寄り添い、尊厳を大切にしたいケアができるよう取り組んでいます。

具体的な支援の一例として、認知症の患者さんが入院する際は、普段の様子や好み、苦手なことなどを家族から聞き取ったり、落ち着きや安心感が得られる物などを自宅から持ってきてもらったりしています。例えば、いつも使っている時計やカレンダーで時間を確認したり、家族の写真を見て自分の日常を思い出したりすることで、混乱を減らし、安心していただくことにつながります。



また、看護師や介護福祉士への指導や助言を通じて、病院全体の認知症ケアの質を高める役割を担っています。定期的に勉強会を開催し患者さんに関わるスタッフ全員が自信をもってケアできる環境づくりに努めています。

こうした活動により、患者さんや関係するすべての人が安心できる医療環境の実現をめざしていきたいと考えています。

(認知症看護認定看護師 岩倉 英理子)

明日に向かって～差別をなくしていくために～

その言葉は本当に届けたい言葉ですか？ —財務部財政課—

今や SNS は、誰もが気軽に思いを発信できる便利なツールです。家族や友人とのやりとり、趣味の共有、地域の情報交換など、さまざまな場面で活用されていて、私自身もよく利用しています。しかし、その便利さの一方で、誹謗中傷や心ない言葉によって誰かが深く傷つけられている場面を目にすることもあります。

最近では、SNS での誹謗中傷に苦しみ、自ら命を絶ってしまうという痛ましい事件がニュースで取り上げられることが増えています。発信した側は軽い気持ちでも、受け取り方は人それぞれということをお忘れはいけません。

人権とは、誰もが安全で安心して生きるための基本的な権利です。インターネット上もその例外ではありません。たとえ顔の見えない相手でも、画面の向こうには、同じように心を持った「誰か」がいるこ

とを意識する必要があります。「自分が言われたらどう思うか」「これは相手を尊重しているか」と投稿ボタンを押す前に、少し立ち止まって考えてみるのが大切です。その小さな気づきと行動が、誰もが安心できる社会をつくる第一歩になると思います。

言葉は、その使い次第で人を勇気づけることも、傷つけることもできます。だからこそ「言葉の力」の重要性を再認識し、相手に自分の言葉がどう伝わるのかを考えた上で発信することが求められていると感じています。

SNS は、正しく使えば人と人をつなぎ、支え合いを生むすばらしいツールです。誰もが安心して利用できる環境を、私たち一人ひとりの意識で育てていきましょう。一つひとつは小さな行動かもしれませんが、その積み重ねがよりよい未来につながるはずです。

■ご意見などは人権政策課 ☎ 22-9683 FAX 22-9641 ✉ jinken-danjo@city.iga.lg.jp へ



伊賀市の文化財 159

上野公園慰霊塔

上野公園の芝生広場の一角に慰霊塔があります。この慰霊塔は、戊辰戦争から第二次世界大戦に至る戦争で亡くなられた市内の戦没者を慰霊し、戦争の悲惨さを忘れることなく平和を願うため、昭和 30 (1955) 年に建てられました。

慰霊塔は、8.7m 四方、高さ 5.5m で、鉄筋コンクリートの建造物です。方形の基壇上に 6 本のコンクリート製の円柱が配され、その上部はコンクリート壁が四方を囲んでいます。基壇の奥には銘板収納室があり、花崗岩製の外壁で中央に銅板製の扉、その上に「慰霊」と刻字された黒御影石がはめられています。また、基壇の上面はコンクリート製のタイルで、中央は円形にくりぬかれ、イチイの木が植えられています。

この慰霊塔は、鉄筋コンクリート製の柱や壁に囲まれた人工空間と自然(樹木)を対比しつつ、全体として調和を図りながら、慰霊の空間を作りだしています。また、鉄やコンクリートといった素材を使用しながらも、慰霊塔にふさわしい荘厳な趣きのある洗練されたモダンイズム建築です。設計の原案は

小倉傳治さんで、昭和 30 (1955) 年 5 月に完成し、10 月には竣工式が行われました。

慰霊碑の北西にある付属施設の献詩碑は、小倉さんが平和の尊さを詠んだ詩が刻まれています。正面の鉄製花台(竣工時)や南西の手水塔(昭和 38 (1963) 年)は、上野市遺族会(現伊賀市遺族会)から寄贈されました。

上野公園慰霊塔は、戦没者への慰霊と平和の尊さを後世に伝える貴重な建造物として令和 7 年 3 月に市指定文化財となりました。

文化財課 ☎ 22-9678 FAX 22-9667



IGAMONO セレクション



No. 63 名月や香りはじける泡の音～Kölsch Style～



2022 年、伊賀市にて新しいブリュワリーをオープンしました。このブリュワリーで生まれた商品が俳聖松尾芭蕉のように全国を巡ってほしいという思いで「ブリュワリーラバ芭蕉庵」と名付け、ビールなど発酵飲料の製造・販売を行っています。

「Kölsch」とは、ドイツの都市ケルン発祥のクラシックなビールスタイルのことです。じっくりと時間をかけて熟成させることで、フルーティな香りと苦みの少ないすっきりとした味わいがあります。クセもないため、クラフトビールが苦手な人でも飲みやすいビール*に仕上げました。

*国内分類上は発泡酒に該当しますが、便宜上ビールと表記しています。



サラヤ株式会社
辻 旺一郎さん

当社は、1952 年の創業以来、「衛生」「環境」「健康」という 3 つのキーワードを事業の柱とし、より豊かで実りある地球社会の実現のため、家庭用・業務用洗浄剤、消毒剤、うがい薬などの衛生用品と、薬液供給機器などの開発・製造・販売、食品衛生・環境衛生のコンサルティング、食品などの開発・製造・販売を行っています。主力商品は、家庭用食器用洗剤の「ヤシノミ洗剤」や手指消毒用アルコールです。また、「健康」にも衛生と同様に力を入れていて、カロリーゼロの甘味料「ラカント」の開発・販売を行っているほか、メディカルフィットネスジム「VITSLEZZA」を運営するなど、生涯にわたり健康を維持・向上できる身体づくりの応援を行っています。



☎ 0595-24-7201

■伊賀ブランド推進協議会事務局(商工労働課) ☎ 22-9669 FAX 22-9695